

子宮体がんについて

子宮がんは、子宮体部（子宮の上部）にできる「子宮体がん」と、子宮頸部（子宮の入り口）にできる「子宮頸がん」に分類されます。今回は子宮体がんについて説明します。

子宮体がんの大部分は子宮内膜（子宮体部にある粘膜）から発生するがんであり、一般的に「子宮体がん」とは子宮内膜がんのことをいいます。子宮体がんは、進行すると子宮頸部や膣、リンパ節、卵巣、卵管に広がっていきます。さらに進行すると、膀胱や直腸に広がる場合があります。また、肺や肝臓など子宮から離れた臓器に転移することがあります。

2019年の統計では、日本で17880例が子宮体がんとして診断されました。2020年は2644人が、子宮体がんが原因で命を落としています。日本では年々増加傾向にありますが、早期で診断されることが多いです。40歳代後半から増加し、50～60歳代に多く認められます。

自覚症状としては、月経ではない期間や閉経後に性器出血を認めることが多いです。赤い血液でなく、褐色のおりものが出る程度のこともあります。進行すると、下腹部の痛み、性交渉の痛み、腰痛、足のむくみなどの症状を認める場合があります。

子宮がん検診は、子宮頸がんの早期発見を目的に行われています。子宮体がんについては、検診を受けていても早期発見できる科学的根拠が残念ながらありません。閉経後の不正性器出血を認める際には、婦人科を受診することをお勧めします。

子宮体がんの治療には、手術、放射線治療、薬物療法があります。子宮体がんは子宮の奥に発生するため、手術の前に正確な進行期を判断することが難しいがんです。そのため、手術が可能な場合にはまず手術を行い、手術により得られた情報に基づいて、その後の治療を決めていきます。手術は、子宮と両側付属器（卵巣・卵管）を取り除く手術を行うことが基本です。ご高齢の方や、重大な合併症があり手術が難しいと総合的に判断された場合には、放射線治療や抗がん剤治療を選択することがあります。

30歳代で子宮体がんとして診断されることもあります。これから妊娠・出産を希望されている場合は、条件を満たせば子宮や卵巣・卵管を残す、妊孕性を温存する治療（ホルモン療法）を選択することもあります。再発リスクとのバランスを考慮して、十分な相談が必要です。

最後に繰り返しになりますが、閉経後に不正出血を認める場合には、子宮体がんの心配がありますので、婦人科を受診するようにお勧めします。

～図書紹介～

新刊図書の一部です



がんを治す心のスイッチ 島倉秀也

がんが自然治癒する仕組み。その理由を発見した医師が教える自然治癒力を高めるがんの治療法。



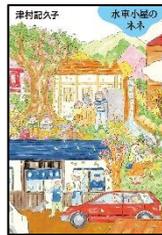
スマホアイ 松岡俊行

スマホを使いすぎると自転車で転ぶ、算数の文章題がわかりにくくなるのはなぜ？



マンガでよくわかる! 発達障害の人が見ている世界 岩瀬利郎

発達障害の人が見ている世界はこんなに違っている。ともに生きるためのヒントをマンガで解説。



水車小屋のネネ 津村記久子

18歳と8歳の姉妹がたどり着いた街で出会ったしゃべる鳥・ネネ。ネネに見守られ、変転してゆくいくつもの人生。



成瀬は天下を取りにいく 宮島未奈

中2の夏休みの初め、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。全力で我が道を突き進む成瀬あかりから目が離せない。



リカバリー・カバヒコ 青山美智子

公園の古いカバの遊具・カバヒコ。カバヒコに触れると、治したいところが回復するという。

お勧めの一冊

精神科医 Tomy が教える | 秒で元気が湧き出る言葉

ついさっきまで落ち込んでいたのに、友達とちょっと話したら元気になったり、美味しいものを食べたら元気になったり、大声で歌ったら元気になったり、お昼寝したら元気になったりするものですよね？

本当に些細なことで、元気は湧いてくることを私自身も実感しています。

ところが、元気が出る方法は、人それぞれ違うし、そのときどきでも違います。元気を出すきっかけが見つからない人もいますでしょう。本当に元気がないときは、あれこれ試してみようとする元気すら出てこないこともあると思います。

そんなときに、この本を手にとって見て下さい。

リビングや職場にこの本を置いて、心がモヤモヤしたとき、朝食後や寝る前に読んでみるとあなたに必要な言葉を届けてくれるでしょう。



(薬剤科 香内綾)

【お知らせ】

今年の暑さは格別で、近々蝉の声が聞こえてきそうです。皆さんお変わりありませんか？

がん相談支援センターが、毎月開催しているミニミニ講演会の「あづまっぺ」ですが、7月からは「がんピアサロン あづまっぺ」と名称を変更し開催いたします。内容はがん体験者やその家族が集い語り合える場となります。同じ体験を通して感じていること、悩んでいること、不安に思うことなどを、ピアサポーター（がん治療体験者が体験からの学びを活かし、がんにかかった方々の悩みや不安を傾聴しともに考える役割の方）とお話してみませんか？ 他のサロン利用者から「いろんな情報を共有し、悩みや不安を聞いてもらうことで、気持ちが楽になった。安心感が得られた。元気がわいてきた」等の意見が聞かれています。予約なしで直接会場に来ていただいてもかまいませんので、お気軽にご参加ください。

がん相談支援センター 古沢